

大阪学院大学高等学校

面白ければ、何でも OK?～投稿する内容について考えよう

授業実践の方法

- ・対象：高校 1 年生普通コース（40 名）
- ・場所：コンピュータ教室
- ・環境：Windows Vista 44 台
- ・指導者：松本宗久教諭
- ・実施時期：2013 年秋



松本宗久教諭

実践報告と今後の課題

■「面白ければ、何でも OK?～投稿する内容について考えよう」の指導案

LINEをはじめ、SNS を利用している生徒は増加の一途をたどっており、SNS の進展にあわせて、正しい知識と利用方法を学ぶことは年齢を越えた急務となっています。たとえば、投稿者は友人のみ閲覧できる（クローズなコミュニケーション）と勝手に思い込んで不誠実な行為を投稿し、それを他人に見られて炎上するなどの問題が露見しています。

今回の実践で特に注力した点は、写真の投稿者・投稿された者・投稿を読んだ者という三者の視点でものを考えさせることです。その理由は、不適切な投稿をする人たちは、道徳的にやってはいけないことをしているという前提が勿論あるのですが、他人の視点でものを見ることのできる能力（メタ認知）が欠けているためにあのような投稿をしてしまうのではないかと、私は感じているからです。今回の実践で学んだことを基礎にして、生徒たちが将来業務を行う際に必要なメタ認知を育成することもできればと考えています。

■授業の様子

以前、投稿者が友人限定公開と思い込んで不誠実な行為を投稿し、それを他人に見られて炎上するなどの上述の問題について本校で取り上げ、教員が SNS 上で学校に関する事柄を検索して生徒の書き込みを発見したことがあると語った際、生徒から「恥ずかしいので見ないでほしい」という言葉が返ってきました。この時、先のようにクローズなコミュニケーションをのぞかれたという生徒たちの意識が感じられました。

今回の授業では、具体的な過去の事例や実際の生徒たちの書き込み等を考慮して作成された現実感のある教材を使いました。今回の授業を通して、生徒たちは、SNS の多くが実際にはオープンな環境であることに気づき、また、SNS で写真を公開するとどのような問題が起こるのか、どのような点に気を付ければよいのかについてグループで話し合うことにより、理解を深めることができましたようです。

■生徒の皆さんが学んだこと ～授業後のアンケートより～

- ・ 便利な世の中になればなるほど情報を簡単に取得することができるということがわかった。
- ・ SNS を正しく使い、将来どのような影響があるのか、また、色々な人が見ていることを忘れないようにしようと思います。
- ・ これからもインターネットを楽しく使うために、今日の授業をふまえて、気をつけて利用しようと思った。

■今後の課題

今回の実践内容は、先に述べたように、年齢をこえて学習することが望ましいと考えています。今回の実践内容をアレンジすれば、中学校や大学でも実践可能です。

また、近年米国で問題になっているリベンジポルノ（交際中に撮ったプライベートな画像などを、ふられた相手がインターネット上に流出させる嫌がらせ）が日本でも起こりはじめていると聞きます。このような観点からも、今後、本授業実践をより多くの学校で行っていくことが重要であると考えています。